



# 休日の午後のコンサート



2024.4.14 (日) 14:00開演 東京オペラシティ コンサートホール  
Sun. Apr. 14, 2024, 14:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

## 〈響演! 100回記念スペシャル〉 〈Symphonic Feast! 100th Anniversary Special〉

指揮とお話 円光寺雅彦 Masahiko Enkoji, conductor & speaker

ゲスト 石丸幹二 Kanji Ishimaru, guest

ソプラノ 福留なぎさ\* Nagisa Fukudome, soprano

メゾ・ソプラノ 花房英里子\* Eriko Hanafusa, mezzo soprano

テノール 寺田宗永\* Munenaga Terada, tenor

バリトン 井出壮志朗\* Soshiro Ide, baritone

合唱 新国立劇場合唱団 (合唱指揮: 平野桂子)\* New National Theatre Chorus (Keiko Hirano, chorusmaster)

コンサートマスター 近藤 薫 Kaoru Kondo, concertmaster

ヘンデル: 『王宮の花火の音楽』より序曲 (約8分)

Händel: Overture from "Music for the Royal Fireworks" (ca. 8 min)

ウォルトン: 戴冠行進曲『王冠』 (約10分)

Walton: Crown Imperial (ca. 10 min)

團 伊玖磨: 祝典行進曲 〈團 伊玖磨生誕100年〉 (約6分)

Ikuma Dan: Festival Overture <The 100th anniversary of Ikuma Dan's birth> (ca. 6 min)

リスト: 交響詩『レ・プレリュード』 (約17分)

Liszt: Symphonic poem "Les Préludes" (ca. 17 min)

— 休憩 intermission —

ベートーヴェン: 交響曲第9番『合唱付き』より第4楽章\* (約25分)

Beethoven: 4th movement from Symphony No. 9 "Choral" (ca. 25 min)

〈100回記念特別企画〉“ラデツキー行進曲”を指揮できる!

〈100th Anniversary Special〉J.Strauss I: Radetzky March

主催: 公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団 / Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金 (舞台芸術等総合支援事業 (公演創造活動)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

◎すべてのお客様に、快適にお楽しみいただくために

♪本公演は全席指定です。指定のお席にご着席ください。演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なる席への着席をお願いすることがございます。♪演奏中のご入場は、固くお断りいたします。楽章間のご入場は楽曲の進行によりスタッフがご案内いたします。入場いただけない場合もございますのでご了承ください。♪曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。♪演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。♪演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

## 出演者プロフィール

### 指揮とお話 円光寺雅彦

Masahiko Enkoji, conductor & speaker

桐朋学園大学指揮科卒業。指揮を齋藤秀雄氏、ピアノを井口愛子氏に師事。1980年ウィーン国立音楽大学に留学しオトマール・スイトナー氏に師事。これまでに東京フィル指揮者、仙台フィル常任指揮者、札幌交響楽団正指揮者、名古屋フィル正指揮者などを務め、数多くの公演を共にしながらオーケストラの飛躍的な発展に貢献してきた。N響、読響、新日本フィル、東響、群響、大阪フィル、広響、九響をはじめとするほとんどの国内オーケストラ、海外ではブラハ響、BBCウェールズ響、ベルゲン・フィル、フランス・ブルターニュ管弦楽団に客演し、深い音楽性と的確な指揮で多くの聴衆を魅了。テレビ等の番組にも定期的に出演するなど、幅広い活躍が続いている。



©K.Miura

### ゲスト 石丸幹二 Kanji Ishimaru, guest

東京音楽大学音楽学部器楽科にてサクソを、東京藝術大学音楽学部にて声楽を学ぶ。東京藝大在学中の90年、劇団四季にて、ミュージカル『オペラ座の怪人』でデビュー。看板俳優として活動を続け、2007年退団。以降、舞台のみならず、映像、音楽分野にも活動の幅を広げている。現在、舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」にハリー・ポッター役で出演のほか、音楽番組「題名のない音楽会」(17年～)、情報番組「健康カプセル! ゲンキの時間」(21年～)の司会を務める。24年4月より、まつもと市民芸術館監督団のメンバーとして活動を始める。



©HIRO KIMURA

### ソプラノ 福留なぎさ Nagisa Fukudome, soprano

新国立劇場『タンホイザー』にて4人の小姓、『修道女アンジェリカ』にて労働修道女1、昭和音楽大学オペラ2021『コジ・ファン・トゥッテ』にフィオルディリージ、2022『フィガロの結婚』に伯爵夫人に出演。日生劇場 NISSAY OPERA 2021『ラ・ボエーム』にてミミのアンダースタディを務める。2022年テアトロジューリオオーケストラショウワ『第九演奏会』、第48回昭和音楽大学『メサイア』公演にてソプラノソリストを務める。新国立劇場合唱団契約メンバー。



### メゾ・ソプラノ 花房英里子 Eriko Hanafusa, mezzo soprano

京都市立芸術大学声楽専攻、首席卒業。東京藝術大学大学院独唱専攻修了。飯塚新人音楽コンクール第一位。東京音楽コンクール第二位、併せて聴衆賞。松方ホール音楽奨励賞。『第九』、『マタイ受難曲』、『復活』等のアルト独唱者の他、二期会本公演『蝶々夫人』スズキ役、新国立劇場『魔笛』童子III役等を務める。二期会会員。



## テノール 寺田宗永 Munenaga Terada, tenor

国立音楽大学声楽科卒業。二期会オペラスタジオマスタークラス優秀賞。第37、40、41回イタリア声楽コンクール入選、長江杯国際音楽コンクール第2位及びテノール特別賞を受賞。さわかみオペラ財団の奨学生としてポーランドでセルジョ・ベルトッキ氏の元で研鑽を積む。新国立劇場や日生劇場、ラトビア国立歌劇場、トリエステ歌劇場等で様々な役で出演。二期会会員。



## バリトン 井出壮志郎 Soshiro Ide, baritone

神奈川県横浜市出身。武蔵野音楽大学卒業。奏楽堂日本歌曲コンクール歌唱部門第2位、イタリア声楽コンクールソシエナ大賞、東京音楽コンクール第3位等、多数の賞を受賞。イタリアにて研鑽を積み、藤原歌劇団公演等の多くのオペラに主要なキャストで出演し好評を博している。宗教曲や交響曲のソリストも務める。藤原歌劇団団員。



## 合唱 新国立劇場合唱団(合唱指揮：平野桂子)

New National Theatre Chorus (Keiko Hirano, chorusmaster)

新国立劇場は、オペラ、バレエ、ダンス、演劇という現代舞台芸術のためのわが国唯一の国立劇場として、1997年10月に開場した。98年4月から、新国立劇場合唱団も年間を通じて行われる数多くのオペラ



©Takafumi Ueno

公演の核を担う合唱団として活動を開始した。メンバーは男女100名を超え、新国立劇場が上演する多彩なオペラ公演により年々レパートリーを増やしている。個々のメンバーは高水準の歌唱力と演技力を有しており、合唱団としての優れたアンサンブル能力と豊かな声量は、公演ごとに共演する出演者、指揮者、演出家・スタッフはもとより、国内外のメディアからも高い評価を得ている。外部出演公演では東京フィルハーモニー交響楽団、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京交響楽団、東京都交響楽団など国内オーケストラとの共演も積極的にに行い、サイモン・ラトル指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団など海外のオーケストラとの共演も数多く、活躍の場を広げている。

## プログラム・ノート

解説=柴田克彦

## 華やかな名曲の数々で祝う100回記念コンサート

25年の歴史を経て100回目を迎えた「休日の午後のコンサート」。〈響演！100回記念スペシャル〉と題した今回は、それに相応しいセレブレイトな音楽が披露されます。最初の3曲はイギリスの王室と日本の皇室の祝賀行事にちなんだ作品。これらは華やかな音楽の中にもその背景ゆえの格調が漂っています。また、リストの『レ・プレリュード』は唯一イベント性のない作品ですが、輝かしい部分の曲調が100回記念に相応しいのは、お聴きになれば誰しも感じられることでしょう。そしてベートーヴェンの「第九」の終楽章は、むろん祝賀的な雰囲気横溢した作品。加えて、“暗から明へ”のコンセプトや平和へのメッセージが込められた本作は、現世においてこの上なく重要な意味を持つことにもなりません。

指揮は本シリーズでもお馴染みの円光寺雅彦。その明快な指揮のもとで、東京フィルとの関係も深い新国立劇場合唱団をはじめとする声楽陣が加わって演奏される、壮麗かつ華麗な響きを満喫しましょう。



100回記念コンサートのタクトをとるのは、東京フィルと数多くの共演を重ねてきたマエストロ円光寺  
©Takafumi Ueno

## 幕開けは壮麗なる音楽の花火

コンサートは輝かしく幕を開けます。最初は、J.S.バッハと同年ドイツに生まれた**ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル**(1685-1759)の『**王宮の花火の音楽**』より序曲。ヘンデルは1710年代にイギ

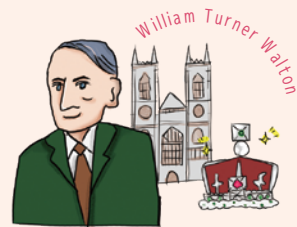
リスへ渡り、1727年当地に帰化しました。その約20年後の1748年、オーストリア継承戦争(イギリスも絡んだ国際戦争)が終結。本作はそれを祝って行われた花火大会のために作曲されました。なおこの大会は、1749年4月に国王ジョージ2世の声かけで開催されたといわれています。

開始を飾る序曲は元々、オーボエ24、ホルン9、トランペット9、ファゴット13、ティンパニ3対という、野外イベントを意識した驚きの編成。もちろん今回は通常の管弦楽版で演奏されます。曲は、壮麗で遅い序奏が長く続いた後、軽快な主部に移り、掛け合いをまじえた大らかで明るい音楽が展開されます。

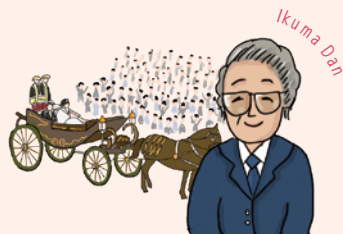


## 祝賀を彩るきらびやかなマーチの響き

おつきもイギリスの作品、20世紀の有力作曲家**ウィリアム・ウォルトン**(1902-1983)の**戴冠行進曲**『**王冠**』です。この曲は、1937年5月12日、ロンドンのウェストミンスター寺院で行われるジョージ6世の戴冠式のために、イギリスBBC放送の委嘱で作曲されたコンサート・マーチ。有名なエルガーの『威風堂々』と同タイプの重厚な行進曲です。曲は、澁刺としたメイン主題に始まり、別の旋律が複数加わりながら進行。『威風堂々』風の流麗かつ荘重なトリオが挟まれます。そしてマーチ部分の再現の後、トリオの主題が堂々と歌い上げられ、勇壮なコーダに至ります。



今度は日本の皇室絡みのマーチ。歌劇『夕鶴』で知られる日本の著名作曲家、**團伊玖磨** (1924-2001) の「**祝典行進曲**」です。こちらは、昭和34年=1959年4月の皇太子殿下(平成天皇。現在の上皇陛下)と美智子妃の御成婚を祝して作曲された作品。その後も、皇室の祝い事や東京オリンピックなど様々なイベントで演奏され、日本の行進曲の代表格の1つにもなっています。曲は、グランド・マーチ風の4分の4拍子で書かれた、シンフォニックながらも優雅な音楽。長いパレードなどにも対応できる大規模で変化に富んだ構成と、悠々たる曲調が特徴的です。



## 運命に翻弄される人間の生への挑戦

かわって、ハンガリーに生まれ、ヨーロッパ各地で活躍した**フランツ・リスト** (1811-86) の交響詩『**レ・プレリュード**』。リストは、“ピアノの魔術師”と呼ばれた大ピアニストにして、“交響詩の創始者”でもあります。交響詩は管弦楽によって詩・物語や情景を描いた標題音楽。リストは、ベルリオーズの『幻想交響曲』などを源流とするこの形態を、一定のジャンルとして確立し、13の交響詩を残しました。その代表曲が1854年に完成された本作です。



内容は、「我々の人生は、死への前奏曲である。愛の喜びは激しい嵐に中断され、傷ついた魂は穏やかな田園生活に救いを求める。しかし長く安住はできず、自らを獲得する戦いへ出かけていく」といったフランスの詩人ラマルティエヌの詩に基づいています。つまりここで言う「プレリュード=前奏曲」は、オペラや劇の幕前の音楽ではなく、“死への前奏曲”、すなわち“人生そのもの”を表わしています。ただし、この曲の原型は合唱曲『4つの元素』の前奏曲で、その音楽に合う標題を探した後に、手を加えて完成されています(つまり筋書きは後付け)。

曲は、大きく4つの部分で構成されています。最初の部分では、死と人生を暗示する主題、及び愛を示す主題が出され、それらに変容されます。第2の部分は人生の嵐。ここで一度クライマックスが築かれます。第3の部分は平安な田園生活。第4の部分は運命に戦いを挑む勇壮な行進曲となり、大きく盛り上がります。

### 新たな世界への希望を歌う「歓喜の歌」

締めくくりは、ドイツに生まれたウィーン古典派の巨匠ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827)の交響曲第9番『合唱付き』より第4楽章。交響曲第9番、いわゆる「第九」は、晩年の1824年に完成されたベートーヴェン最後の交響曲にして、声楽付きで壮大な4楽章からなる、当時としては破格の作品です。日本では年末の風物詩となっていますが、世界では、1951年戦後初のバイロイト音楽祭開催(フルトヴェングラー指揮の録音で有名)、1955年ウィーン国立歌劇場の再建、1989年ベルリンの壁崩壊の記念といった特別な機会に演奏されています。また第4楽章の「歓喜の歌」は、1964年東京オリンピックで東西ドイツ合同選手団の国歌となり、1998年長野オリンピックの開会式では、世界5大陸6カ国7カ所で同時演奏(小澤征爾指揮)され、EUの国歌、ユネスコの世界記録遺産にもなっています。かように「第九」は、皆が心をひとつにして新たな世界へ向かう際に演奏され、団結や平和の象徴となってきました。



今回演奏される第4楽章は、声楽が入る核心的なフィナーレ。歌詞には、ドイツの劇作家シラーの「歓喜に寄す」が用いられていますが、ベートーヴェンはその一部を採用し、「おお、友よ」というバリトンの歌い出し部分は自身で創作しました。ここで「このような調べではなく!」と、それまでの音楽を否定して「歓喜の歌」へと移るのですから、この曲全体が持つ“苦悩から歓喜へ”のモットーが明確に示されているといえるでしょう。

同楽章(プレスト-アレグロ・アッサイ)は、嵐のように始まり、前半はオーケストラのみで進行します。前3楽章の主題が回顧されては打ち消された後、低音弦楽器が「歓喜の歌」の旋律を静かに提示。しばし展開後、冒頭の嵐が戻って、バリトンが歌い始めます。声楽部分は、①バリトン独唱・四重唱・合唱による「歓喜の歌」→②テノール独唱によるトルコ行進曲風の音楽、管弦楽のフーガ、合唱による「歓喜の歌」の再現→③男声合唱に始まる教会風の音楽→④女声合唱に始まる二重フーガ→⑤技巧的な動きを伴う四重唱と合唱→⑥合唱主体の急速なコーダと推移。「すべての人々が、みな兄弟となる」「抱き合おう、いく百万の人々よ!」といった内容の歌詞が歌われ、華麗に終了します。



しばた・かつこ(音楽ライター)ノ音楽マネージメント勤務を経て、フリーランスの音楽ライター、評論家、編集者となる。雑誌、公演プログラム、Web、宣伝媒体、CDブックレット等への寄稿、プログラム等の編集業務のほか、一般向けの講演や講座も行うなど、幅広く活動中。著書に「山本直純と小澤征爾」(朝日新書)、「吹奏楽編曲されているクラシック名曲集」(音楽之友社)。



## 歌詞対訳

歌詞対訳=野本由紀夫

## ベートーヴェン:交響曲第9番 ニ短調『合唱付き』作品125 第4楽章

Beethoven: Symphony No. 9 in D minor "Choral" Op. 125, 4th mov.

4  
/14休  
日  
の  
レ  
コ  
ン  
サ  
ー  
ト

## Recitativo

O Freunde, nicht diese Töne!  
Sondern laßt uns angenehmere anstimmen,  
und freudenvollere.

## レチタティーヴォ

[バリトン独唱]

おお、友よ、このような調べではなく！  
もっと心地よく、もっと喜びに満ちた調べを  
歌いはじめよう。

## Friedrich Schiller: An die Freude

Freude, schöner Götterfunken,  
Tochter aus Elysium,  
Wir betreten feuertrunken,  
Himmlische, dein Heiligtum!  
Deine Zauber binden wieder,  
was die Mode streng geteilt;  
Alle Menschen werden Brüder,  
wo dein sanfter Flügel weilt.

## フリードリヒ・シラー「歓喜に寄す」より

## 第1節 主部

歓喜よ、神々の美しい閃光よ、  
楽園（エリュシオン）の娘よ、  
われらは火に酔いしれて、  
天使よ、おまえの聖殿に足を踏み入れよう！  
この世の慣わしが厳格に分け隔てていたものを、  
おまえの神秘的な力がふたたび結びつける。  
すべての人々が、みな兄弟となる。  
おまえのやさしい片翼が、しばしとどまるとき。

## 第2節 主部

Wem der große Wurf gelungen,  
eines Freundes Freund zu sein,  
Wer ein holdes Weib errungen,  
mische seinen Jubel ein!  
Ja, wer auch nur eine Seele  
sein nennt auf dem Erdenrund!  
Und wer's nie gekonnt, der stehle  
weinend sich aus diesem Bund.

ひとりの友の、友となる、  
偉大な業をなしとげた者、  
優美な妻をかちえた者は、  
ともに歓呼の声に加わるがよい！  
そう、たったひとり（ひとつの魂）であっても  
それをこの世で自分のものと呼べる者は！  
しかし、それがまったくできなかった者は、  
この輪から泣きながら立ち去れ。

Freude trinken alle Wesen  
an den Brüsten der Natur;  
Alle Guten, alle Bösen  
folgen ihrer Rosenspur.  
Küsse gab sie uns und Reben,  
einen Freund, geprüft im Tod;  
Wollust ward dem Wurm gegeben,  
und der Cherub steht vor Gott.

Froh, wie seine Sonnen fliegen,  
durch des Himmels prächt'gen Plan,  
Laufet, Brüder, eure Bahn,  
freudig, wie ein Held zum Siegen.

Seid umschlungen, Millionen!  
Diesen Kuß der ganzen Welt!  
Brüder! überm Sternenzelt  
muß ein lieber Vater wohnen.

Ihr stürzt nieder, Millionen?  
Ahnest du den Schöpfer, Welt?  
Such' ihn überm Sternenzelt!  
Über Sternen muß er wohnen.

### 第3節 主部

生きとし生けるものは、みな  
自然の乳房から歓喜を飲む。  
善なる者も、悪なる者も、みな  
その薔薇の残り香を追っていく。  
歓喜はわれらに口づけとブドウ酒を与え、  
死の試練を経たひとりの友も授けた。  
虫けらに与えられたのは狂喜である。  
そして智天使（ケルブ）が神の前に立つ。

### 第4節 コーラス

(蒼穹の) 太陽たち（星々）が天空の壮麗な平原を  
飛びまわるように、喜ばしく。  
駆けよ、兄弟、おまえたちの道を。  
英雄が勝利に進むように、喜々として。

### 第1節 コーラス

抱き合おう、いく百万の人々よ！  
この口づけを世界じゅうに！  
兄弟よ！ 星空の天幕のかなたに  
愛する父（神）は必ずや、おられるのだ。

### 第3節 コーラス

いく百万の人々よ、ひざまずくのか？  
世界よ、創造主を感じるか？  
星空の天幕のかなたに、創造主を求めよ！  
星のかなたに、創造主は必ずや、おられるのだ。